

「地質調査技士に合格して」

土木地質㈱ 相澤秀樹

地質調査の仕事に就いて三年余り。実務のなかで多くのことを経験し、学んできた。しかしながら、これらは断片的な事柄が多く、原理・理論の詳細まで突き詰めて理解していることは少ない。これらを「なんとか整理しまとめる機会はないものか」と常々考えていた。また、「三年たった今自分がどれ程の技術・知識を持っているのだろうか」という疑問も抱いていた。そのような折、社から地質調査技士を取得するようにとの要請があった。私自身、地質調査技士を受験することは、これらの問題を解決する良い機会であり、良い目標になるものと考え受験することを決意した。

とはいものの、実務においてもそうではあるが、「地質調査技士」で問題となる事項はあまりに多岐にわたる。「勉強することも目的のひとつ」と諦め(?)、入社時以来ごぶさたの「ボーリングポケットブック」を1ページから捲りはじめた。かなりつらかった。いつもの仕事のことではあるのだが、一つ一つを繙けば「地質調査技士」の仕事の難しさを改めて実感させられる結果となった。「調査」技士とはいえ、測量・設計・施工の全てに関わりを持つため、それらの技術・内容についても理解していくなければならないのは実務においても実感させられるところである。

試験当日の朝、「明日から自分は地質調査技士だ」というところまで気合を入れて挑んでみたも

の、午後の5時には「また来年…」と仲間と慰め合う。

「さて、次回に向けてまた頑張るか」と考えていた折に合格の知らせがあった。嬉しい反面、「自分はまだまだ技術も知識も経験も足りない」と考え改めていた私には実に荷が重いと感じられました。しかし、合格した以上は「まだまだ」の地質調査技士ではなく、「まあまあ」の、いや「なかなか」やる地質調査技士をめざそう。

発注段階で「現場代理人：地質調査技士の資格を有する者」と明記されることも多く、資格としての必要性も高まっている。私自身にとっても地質調査技士合格は、この仕事を続けていく上でひとつの節目となつたと思う。一心不乱に「ボーリングポケットブック」を読み、現場でその内容を確認し、「事前講習会」を受講することによって、少なくとも私の頭脳の及ぶ範囲の事柄は整理することができたし、これによってさらに技術・知識を深めていく準備を整えることができた。また、これから仕事に対してより一層自信・責任感を持つことができるだろう。「事前講習会」で配付されたテキストもすばらしくまとまった内容であり、末永くお世話になることと思う。

これからも「地質調査技士」の名に恥じないよう、日々精進したい。

私が地質調査の仕事をして、6年がたちました。最初の頃は、仕事の内容すらわからず、ただ

基礎地盤コンサルタント㈱ 泉山建三

先輩達の仕事を見ているだけでした。今は、諸先輩の指導のおかげで少しずつ仕事がわかってきた

様な気がします。

今回、地質調査技士を受験し、合格出来たのも、会社はじめ諸先輩のおかげだと思い感謝しています。

自分は、受験の一ヶ月前に協会でやった講習会に参加しました。その時、講師の方が言った「ふだんの現場も勉強だ」という言葉が頭に残り、現場へ行っても受験の事を考えながら仕事をしていました。参考書を見て勉強するよりも、理解しやすいと思いました。自分は室内試験はほとんど経験がないのでその分野は参考書を見て勉強しました。

約一ヶ月そうして勉強したかいあって、筆記試

験は自分なりに出来たように思いました。午後の口頭試験は、緊張してあまりうまく回答出来なかつたので少し不安でした。

そして、九月中旬に合格という結果を知り、とてもうれしい反面、これからがんばろうと思いました。

地質調査技士として、一人前になる為に、これからが大変だと思います。

毎日が勉強だと思い、わからない事は先輩達の指導を受けながら、後輩達と一緒に勉強していきたいと思います。今は経験不足ですが、これからいろいろな現場をやり、技術の向上をめざし頑張っていきたいと思います。

日本地下水開発株 大 滝 勝

結果の活用まで初心者向けに記述されており、最もわかりやすい。

4. 管理技法

ポケットブックや協会の受験講習会テキストを読むだけでは及第点は取れない。原典（ボーリング作業のための安全手帳）を読むことが絶対必要である。合格した今回の記述試験は「機材搬入の保安対策」が出題されたため、特に効果的であった。

5. 記述試験

現場技術の学習も兼ね、ひたすら書いて覚えた。

6. 面 接

試験願書では現場技術者（フォアマン）としての経験が重視されるが、面接では自分の業務をはっきり答えることが望まれる。合格した今回、自分の業務（代理人・報告書作成）を答えるのに一瞬詰まったが、試験官から「正直に答えて結構です」と指摘された。

7. その他

過去を学習し、多数の解答が違っているとやる気が失せてくる。「こんなにわからなかった」ではなく「わからない部分が見つかった」と発

このたび私は四度目の挑戦にて地質調査技士試験に合格することができました。一般の方よりも数多く受験しましたので（笑）、その経験から出題分野別に試験準備について述べてみます。

1. 基礎知識

最近の傾向として土木・建設関連の出題もあるため、普段から広い分野に关心を持つ。たまにダム関連の出題もみられるため、土質部門受験者は基礎知識として岩盤部門の問題にも目を通すことが望まれる。

2. 現場技術

ひたすらボーリングポケットブックを読む。普段は現場代理人・報告書作成を務めているため、過去の問を学習した際に最も弱い分野であった。現場作業に直接携わっていない者が現場技術を理解するには、基礎的な項目（機材の名称・仕様、掘削時の現象）の暗記が前提となると考え、理屈抜きで必要項目の暗記に務めた。

3. 調査技術の理解度

最近のフォアマン以外の受験者増加を反映して、室内試験に関する突っ込んだ出題が見られる。あまり紹介されていないが土木学会の「土質試験のびき」は具体的な試験方法から試験

想転換して学習に望んだ。

不合格を知らされた時は、毎回「来年は早めに準備しておこう」と思うのだが、気がつけば試験日は来月、という事の繰り返しであった。四年目は早めの試験準備を諦め、残り少ない時間をいかに有効に使うかに主眼を置いた。昭和60年代から昨年までの過去問を何度も繰り返して解き、苦手な分野・問題を常にはっきりさせて参考書を読んだ。

ある技術講習会で、やはり私と同じく四度目

の受験を控えた方と一緒にになった。試験勉強中、同じ目的を持ち、同じ境遇の人がいることを知ったのが、一番の励みであった。

試験の合格を知らされた時は、喜びよりも「長い階段の入り口によく立ちた」というのが正直な感想である。

最後に、社内外を問わず合格まで励ました下さった多くの方々に、誌上にて深く感謝申し上げます。

平成10年9月24日、全国地質調査業協会より一通の封筒が届きました。一昨年の同じ頃に届いたものとは、明らかに大きさが違っていたので、期待しつつも、「いや、もしかしたら封筒の大きさを変えたのかも」と、不安を残しながら、ゆっくりと開けました。すると、初めて目にする黄色い紙には「合格証」の文字が輝いていました。

地質調査という仕事に携わる者として、資格が取得できたことで、一人前と認められるための1つのハードルを越えたことを実感するとともに、今後、仕事に対する責任が以前よりも大きくなることを自覚しました。資格を得るために学んだ知識を、実務にどのように生かしていくか、また、実務により得られる知識をどれだけ上積みできるかを、今後の課題にしたいと考えています。

私は、現場代理人という立場で、現在6年目をむかえました。これまで、現場管理および調査報告書作成を主たる業務をしてきましたが、経験を重ねるにつれ、現場で得られる情報の重要性をより強く感じています。現場で得られる情報は、現場あるいは調査報告段階で切り捨てず、どんな些細な情報でも、次の設計・施工段階に伝えるように心懸けています。また、これまでの間、幸いにもボーリング作業中の人的な事故を起こさずにこられたのは、ひとえに一緒に仕事をしたボーリング機長、助手の方々の協力のおかげだと感謝してお

川崎地質㈱ 檻 淵 俊 樹
ります。

正直に言ってしまえば、私は、地質調査に興味があったからというような理由でこの仕事を選んだわけではありません。しかし、この仕事を始めてから、土質力学という学問に楽しさを感じて、自分に気付きました。土のある現象に対して、頭の中で「土粒子、水、空気がこんなふうになっていて、これにこっち側から力を加えたら、土粒子同士ぶつかって、水圧が上がり、空気がつぶれるから……云々」「ミクロ的に見ればこうかもしれないけど、視点を大きくすると、不均質を考えなくちゃいけないから……全然わからん」などと考えるのが、暇つぶしの内で、最高の楽しみとなっています。また、こういう考え方をすると、難解であった理論が以前より理解しやすくなりましたが、理解が進んだ分、極めて不均質な、実際の地盤の理論的処理の難しさに頭を悩ませています。

地質調査の目的は、単に地質・土質の判別を行うことではなく、最終的に、より経済的で、より安全な構造物を造ることであると思います。また、地質調査により決定する地盤の工学的評価は、構造物を造る過程での根本であり、地質調査の精度の向上は、構造物の良し悪しに直結すると思います。将来、この仕事から離れなければならないときに、地質調査の精度向上に少しは貢献できただ

ろうと感じることができれば、と思っています。
最後に、講習会において、要点を的確に指導していただいた講師の方々、貴重な休日を割いてい

ただいた監督官・面接官の方々に、御礼申し上げます。

以上

私が受験を思い立ったのは、数年前でした。しかし仕事が忙しい（？）ことを理由になかなか受験できませんでした。昨年やっと受験願書を提出したものの、仕事の関係で事前講習会にも出席できず「見事不合格」という結果に終わりました。初めて受験してまず思ったことは、「難しい」の一言でした。しかも出題が広範囲で、「一筋縄ではいかないぞ！」と思い、安易に考えていたことを反省しました。

従って、今年の受験対策として、まず過去の出題問題を解いてみて自分の知識不足な項目を発見することから始めました。その結果、「基礎知識」および「ボーリング技術」に弱点があることを発見し、この2項目に重点をおいて勉強しました。といつても机に向かって勉強したのは受験日の1週間前ぐらいからで、「基礎知識」は新聞の自然科学欄をよく読むように心がけ、「ボーリング技術」に関しては、すでに地質調査技士に合格している会社の先輩に、自分の理解できない問題を質問したりという勉強方法を取りました。

受験を終えて、「受かった」と思う確かな手応

計測技術サービス㈱ 高橋 健 悅

えもなく合格発表をむかえました。合格を知ったのは、全地連の「FAX情報BOX」です。自分の名前を発見したときは、大きな解放感を味わうことができました。また地質調査技士としての責任ある仕事をしなければならないと思いました。

私の所属する会社は、ボーリング調査というよりも、計測業務を主体とする会社です。しかし、孔内試験など、ボーリングオペレータとの共同作業となる場合が多く、オペレータに計測業務を知ってもらうと同時に、我々も、ボーリング技術を身につけなければ、より精度の高い試験・計測ができないと常に考えております。従って、地質調査技士という資格をどうしてもほしかったのです。私は口頭試験でも、試験官にこの資格の必要性を強調しました。今後受験される方も、口頭試験では、自分のおかれている立場、必要性を、正直に試験官にアピールすることをお勧めします。

最後に、いろいろな面でアドバイスをくれた現場のオペレータのみなさまに感謝するとともに、地質調査技士として共に地質調査業務に従事していきたいと思います。

㈱自然科学調査事務所 高橋 俊 幸

現場での状況及び背景などの記憶を呼び起こすことである程度の参考になり、それが解答へつながるのではと考えます。また、口頭試験においては試験官の質問に自分の思っていることを臆することなくすらすら述べるように心がけ、わからない質問については正直に「わかりません」と答えるようにしました。以上が私の試験に対する挑戦方法及び心がまえです。

次に、日常自分が会社員として仕事をしている

この度は当試験に合格してほっと胸をなで下ろしている次第です。

さて試験への挑戦方法ですが、これといった特別な方法を考え出したわけではなく、私の場合は過去の問題集を繰り返し解答し、まちがえた部分をボーリングポケットブックや関係資料などでチェックするところから始めました。それにより数字的な暗記すべき点や内容を理解することができたように思います。記述式の問題については、

自分について述べます。まず、会社とは組織であるということで、当然ながら多数の決まり事、規定などがあり、それに準じて自分は何をしなければならないのかという役割が課せられます。現場作業はもちろんのこと、報告書作成やそれに伴う書類関係作成などの内業にも従事しなければなりません。その場合、自分自身では責任のある行動あるいは言動を行っているつもりでも、ちょっとした気持ちの油断からミスを犯し、会社にとっては大きな損失につながり、結果的に信用問題にまで広がる可能性も生まれます。確かに良い報告書を納品し高い評価を受けることで会社は大きく成長するでしょう。しかし、そこには結果に至るまでの過程があり、その過程にはさまざまなミスも生まれるはずです。つまり、良い結果を出すためにさまざまなミスに対しどのような対処を講じたかが重要になると思うのです。自分自身はもちろんのこと、回りの同僚や上司の協力とアドバイスがあって初めて良い成果品ができるのではないかと思います。これから先も常に会社の中の自分の立場というものをみつめ、仕事に従事したいものです。

最後に、現場の楽しさ、難しさについて述べますが、現場の楽しさはいうまでもなく、ひとつのことを仲間とともになしとげたことでの充実感と

満足感につきると思います。また現場（特にボーリング現場）では常に問題及び事故がつきまとい、その都度それらをひとつひとつ解決していかなければ作業は進みません。その場合、自分ひとりの力ではない仲間とのチームワークによる力が生まれ、それぞれの意見交換やアドバイス及び技術的な協力が現場作業をまい進させます。同じ現場、同じ目的に向かっての仲間との現場作業の良い点は、多々の問題、事故を解決しひとつのことをなしとげた喜びをともに分かち合えることがあると思います。つまり、現場作業はスポーツにもあるようにチームワークの勝利であるとともに、良い人間関係を形成する上でも重要なウエートを占めた仕事の一部であると思います。一方、現場の難しさは、個々の勉強不足や経験不足によりボーリング事故を回復させるために貴重な時間を割いてしまったり、チームワーク力の不足など、数えたらきりがないほど存在すると思われます。したがって、現場作業に従事する我々は現場での問題点、事故処理に対して常日頃努力してまいりたいと思います。

私自身当試験に合格したことでの満足感はあります、そのことで日常の仕事の面でもおごらずチームワークを大切にし、なお一層の努力をしてまいりたいと思います。
以上

